

朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会から見る 北朝鮮経済の変化

ERINA 調査研究部主任研究員

三村光弘

要旨

2021年12月27日～31日に朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会が開催された。後述する第1議題と第3議題が議論の中心となり、第2日目の後半から第4日目の前半までは部門別分科研究および協議会で決定書草案に対する討論が行われた。

金正恩総書記が、第1議題に対して「2022年度の党と国家の活動方向について」と題する綱領的な結語を述べた。この結語は2021年の総括と2022年度の方針について語ったもので、2021年の北朝鮮経済が苦しい状況ではあるものの、国営企業が従うべき計画規律を守り、内閣の経済指導に対する指導力が向上し、違法な経済活動に対する法的統制が強化されるなど、経済秩序の立て直しが進んでいることが強調された。また、2021年1月の朝鮮労働党第8回大会以来定着してきた問題点を隠蔽しないで指摘し、その原因を解明、幹部間での相互批判などが健在であることが観察された。新たな産業分野の開拓などについては語られなかった。

金正恩総書記は、第3議題「わが国の社会主義農村問題の正しい解決のための当面の課題について」に対して、「朝鮮式社会主義農村発展の偉大な新時代を開いていこう」と題する報告を行った。この報告は金日成主席が1964年に提起した「社会主義農村問題に関するテーゼ」に依拠しながら、現代の趨勢に合わせた農業政策の方向性について論じたものである。都市と農村の格差を縮小させるという命題は不変であるとしたうえで画一的になりがちな指導の問題点を指摘し「国家の力強い支援と強力な国家的指導システムの稼働、地方建設の主人である市、郡の役割の向上」が必要であるとしている。

主食についてはこれまでのコメとトウモロコシを主体としたものから、徐々にコメと小麦粉食品を主にする方向へと政策を変更していくことを主張している。その他、大豆栽培、ジャガイモ栽培の重視や低収獲地の改良、畜産と果樹、野菜と工芸作物の栽培増など、国内生産の質、量の増加による国民生活の向上を図ろうとしている。

農業に対する指導と管理については、「統一かつ計画的で科学技術的な指導」の強化と農業部門の根深いほら（虚偽報告のことか）をなくすことについて指摘したとしている。またより現場に近い、里の朝鮮労働党書記の水準と役割を強化についても触れている。

第1議題、第3議題ともに、大きな変化とは言えないかもしれないが、上述したように、実質的に朝鮮労働党や北朝鮮政府の活動に影響を与える変化が散見される。これらの変化が本当に実現できるとすれば、制裁下かつ特別防疫体制下においても、金正恩総書記が目指している内閣中心制を中心とする朝鮮式经济管理体制が不断に整備されてきたと言えるようになるだろう。また、朝鮮労働党や北朝鮮政府において「実質的に働く幹部」を増やすことや、農村などの現場で「虚偽報告をしない文化」を確立することがいかに難しく、時間がかかるのか。しかし、それこそが経済を立て直す上で重要であるかを指導部が認識していることが確認できる。

以上のことから、北朝鮮においては非常に厳しい経済的、国際的な環境の中でも、経済の外延的拡大が再び可能になった時に、より力強い成長をすることができるようにするための粘り強い経済政策の改善が試みられていると言える。それが成功するかどうかについてはもう少し時間をおいてみる必要があるだろう。

キーワード：朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会、経済計画、経済改革、行政改革、制裁

JEL Classification Codes : O53, P20, P27, F51

はじめに

朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮とする）では、2021年12月27日～31日に朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会が開催された。2022年1月1日付『労働新聞』は、「偉大なわが国家の富強・発展とわが人民の福利のためにいっそう力強く闘っていこう」と題する朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会に関する報道を行った。現在公開されている同総会関連の報道では、対外政策に関する言

及は非常に少なく、ほとんどが国内問題、特に経済問題に関する内容である。本稿では、朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会の報道を中心に、北朝鮮が現状でどのような政策をとりようとしているのかを読み取ることを目的とする。

本稿では、朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会の報道を中心に、北朝鮮が現状でどのような政策をとりようとしているのかを読み取ることを目的とする。

本稿では、朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会の報道を中心に、北朝鮮が現状でどのような政策をとりようとしているのかを読み取ることを目的とする。

1. 朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会に関する報道

2022年1月1日付『労働新聞』に掲載された報道は次の通りである。

総会は、全党、全国、全人民が第8回党大会が示した雄大な戦略思想と実践綱領を体して5カ年計画遂行の初年を誇るに足る勝利に輝かし、社会主義建設の全面的発展を目指す次の段階の闘争へ信念に満ちて移行している歴史的な時期に招集された。

朝鮮労働党総書記である敬愛する金正恩同志が、総会に出席した。

金正恩総書記が会議場の幹部壇に登壇すると、全ての参加者は並々ならぬ思想的・理論的英知で社会主義の新しい勝利の目標を立てて、一年中、精力的な指導活動で国家繁栄の強固な基盤を築いてくれたわが党と人民の卓越した指導者であり、わが国家の強大さの象徴である金正恩総書記を仰いで熱狂の歓呼の声を上げた。

総会には、朝鮮労働党中央委員会の委員、委員候補が参加した。党中央委員会部署の活動家と省、中央機関、道級指導的機関と市、郡、重要工場、企業の責任活動家、当該の重要部門の活動家が傍聴した。

党中央委員会の政治局委員で執行部が構成された。党中央委員会の政治局は、金正恩総書記に総会の司会を委任した。

金正恩総書記は、今回の総会招集の基本目的とその意義、重要性について言及し、歴史的な第8回党大会の決定貫徹の初年である2021年度の党と国家活動に対する党中央委員会の分析と評価を下した。

金正恩総書記は、党大会が示した発展と変革の5カ年計画を遂行するにあたって現在の一年一年の活動は社会主義建設の発展的段階においても、わが党と国家の現実的条件と環境においても極めてかなめで重要な意義を持つと述べ、今回の総会を通じてわれわれみんなは今年の活動に劣らず膨大かつ重大な来年の活動の戦略的重要性について自覚すると

もに、重くて責任ある苦悩に直面するであろうと指摘した。

金正恩総書記は、今年の闘争を通じてわれわれは現在、われわれが対しており、また今後直面することになる革命的・主体的・客観的条件と環境をより鮮明に予測できるようにになったし、われわれができることをよく知り、われわれの可能性と自信をいっそう明確に持つことになったと述べた。

現在の対内外形勢を正確に理解し、正確に判断し、正確な闘争方針をとらえて正確な方向に沿って正確な歩みを踏み出してこそ、実際の発展的变化によって次の段階の闘争へ移行することができる」と述べた。

金正恩総書記は、一年の活動を誇らしく総括するこの時点でもわれわれは必ず冷静さを持って教訓的なものを先に分析してみなければならないと述べ、われわれが汲み取る一連の教訓が革命的な政策をいっそう補完し、われわれのさらなる発展の潜在力を引き出す推進力になるようにするとともに、今回の総会を招集した重要な目的があり、これに革命発展の大きな実践的意義があると述べた。

党中央委員会は、高貴な教訓と献身の努力が凝縮しており、高い責任感と奮発力に満ちている今年の成果と経験を積極的に奨励し、増幅させなければならない、新年度の計画討議で重い責任感と最大の創意性を発揮してさらなる成功と勝利によって社会主義建設の全面的発展を早めなければならないと認めた。

総会には、次のような議案が上程された。

1. 2021年度の主要党と国家政策の執行状況の総括と2022年度の活動計画について
2. 2021年度の国家予算執行状況と2022年度の国家予算案について
3. わが国の社会主義農村問題の正しい解決のための当面の課題について
4. 党規約の一部の条項を修正することについて
5. 党中央指導機関メンバーの2021年度下半期の党組織・思想生活状況について
6. 組織問題

総会は、上程された議案を全会一致で

承認した。

総会は、第1の議案の討議として、朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員会委員である金徳訓内閣総理が提起した報告と部門別討論を聴取した。

金正恩総書記が第1の議案に対する綱領的な結語「2022年度の党と国家の活動方向について」を述べた。

金正恩総書記はまず、党大会の決定を貫徹するための党と国家の初年の活動状況を分析、総括した。

党大会が示した社会主義建設の新しい実践綱領を高く掲げて緊張して張り合いがあるように闘ってきた2021年は厳しい難関の中で社会主義建設の全面的発展への壮大な変化の序幕を開いた偉大な勝利の年であるというのが党中央委員会が下した総評である。

党中央委員会が今年の活動で掲げた総体的な目標と志向は、第8期第2回総会で示された課題を無条件に遂行して人民が待って喜ぶ実際の変化、実質的な成果をもたらすことであった。

党中央委員会は、今年の活動を手配し、推し進めながら計画の作成から発展指向性と牽引性、科学性を保障するとともに、その実行において無条件性と徹底性、正確性の気風を確立することに特別な力を入れたし、活動家を適時に自覚、奮発させ、経済活動と人民生活の切実な懸案に対する解決対策を適時に樹立した。

党が最も重視する農業部門で評価できる成果、自信を持てるようにするはっきりした新たな前進が遂げられた。

重要なことは、農業の豊凶を左右していた災害性気象現象と障害要因に先を見通して対応する科学的な方法論を掌握することによって、いかなる条件の下でも農業を安全に営める確信を持つようになったことであり、これはわが農業勤労者の高い愛国的熱誠と堅忍不拔の努力がもたらした大事な結実である。

金正恩総書記は、今年の不利な条件の下でも農業を立派に営むことに積極的に寄与した農業部門の模範的な活動家と勤労者、科学者、技術者に党中央委員会の名で感謝を送ることを総会に丁寧に提議した。

総会は、金正恩総書記の提議を全幅的に支持、賛同した。

党中央委員会が今年、人民に出した注目される成果は、計画した膨大な大建設課題を迫力あるものに推し進めて朝鮮式社会主義の躍動的な発展相と底力を大きく誇示したことである。

松新・松花地区の1万世帯建設が基本的に締めくくられてもう一つの大建築群が建てられたのは、5カ年計画期間に首都の住宅問題を完璧に解決できる展望、その最初の実体を見せた驚異的な奇跡である。

三池淵市（両江道）建設の第3段階工事が締めくくられて、全国の地方を改変させる長期的な大建設を確信を持って推し進める理想的なモデル、生きた経験を持つことになった。

検徳地区（咸鏡南道）の5000世帯住宅の建設が成功裏に進捗し、咸鏡南道と咸鏡北道の水害復旧が円滑に行われたし、近代的な段々式住宅区の建設をはじめ多くの対象工事で新しい建築形式が導入され、新しいアイデアが創造されてわれわれの建築が一段と跳躍し、建設の大繁栄期が引き続き開花、発展していることを立証した。

人民経済の動力保障を受け持った電力、石炭工業部門が生産運動を力強く展開して経済全般を活気に満ちて牽引し、建材工業部門と機械、採取、林業、陸・海運、鉄道運輸部門で国家的建設と生産的高揚を裏付けたことをはじめ、今年の計画遂行で新たな前進の改善と実績がもたらされた。

経済部門で計画規律が確立し、経済幹部の活動気風が著しく改善されたし、これは今後、経済と国家活動をより強力に前進させられる力強い保証となる。

社会主義的な生活、社会主義的な発展を志向する全人民的な共通の思想意識がより強烈になって集団主義の威力が実践で強く発揮された。

党中央委員会は、今年の活動で新たな革新、大胆な創造、絶え間ない前進を遂げようとする機運が優勢に発現され、党の組織規律強化、党決定の実行をはじめ党風の確立に転換がもたらされたと評価した。

内閣をはじめ経済指導機関で経済活動に対する国家の統一的指導と統制を強化し、経済管理方法を改善するための試みが積極化されたし、社会主義法律制度を完備する活動がより深化され、法秩序が強化されて経済の発展と人民生活の安定を保証する上で実質的な進展が遂げられた。

国防工業部門で正確な発展計画に従って先端兵器システムを連続開発しながら、われわれの軍事力の先進性と近代性を大いに誇示したのは、今年の成果でたいへん重要な位置を占める。

党大会が開かれた今年、数多くの青年が困難で骨の折れる部門に志願し、人々を感動させる美德、美風の持ち主になったのをはじめ、青年の勢いが非常に高揚したのは注目に値する政治的成果である。

党中央委員会は、今年の闘争成果を評価しながら、極めて困難な環境で経済を安定化する方法、自力で生き抜く方法を一つ一つ積極的に探し出して実行していること、これが経済発展での肯定であり、この過程がすなわち全面的国家発展に向けた朝鮮式社会主義の力強い前進過程になると評価した。

金正恩総書記は、今年の活動で堂々と自負できる大きな成果が収められたのは全人民が党大会の権威を断固守ろうとする忠誠の熱意を抱いて勇猛果敢に決起して全ての困難を忍耐しながら5カ年計画初年の課題遂行に愛国の汗を惜しみなくささげたからであると述べ、堅忍不拔の頑強な努力で党大会が開かれた2021年をわれわれの社会主義建設史に特記すべき誇らしい勝利の年に輝かせた全党の党員と全国の勤労者、人民軍将兵を党中央委員会の名義で高く評価し、温かいあいさつを送った。

結語では、今年の活動での欠点と重要な教訓、その解決策が詳細に言及された。

金正恩総書記は、2022年度の党と国家活動の中心方向について指摘しながら、社会主義建設の新しい発展のための原則的問題と闘争方針を宣明した。

来年にわが党と人民に提起される基本課題は、5カ年計画遂行の確固たる保証

を構築し、国家の発展と人民の生活ではっきりした改変を成し遂げて祖国の歴史に栄光に輝く一ページを記すことである。

社会主義建設の基本部門である経済部門では、現行の生産を活性化しながら整備・補強をより力強く推し進めて国の経済を成長の軌道に乗せ、人民に安定して向上した生活を提供することに総集中しなければならない。

結語では、来年に基幹工業部門が遂行すべき重要政策的課題が具体的に示された。

金属工業部門では、朝鮮式の鉄生産方法を技術的によりいっそう洗練させ、原料と燃料、資材保障を伴わせて鉄鋼材を計画通りに生産し、能力の拡張と近代化を同時に推し進めなければならない。

化学工業部門では、新しく造成した肥料生産能力を十分に発揮し、重要化学工場を活性化して軽工業と製薬工業の原料生産を増やすとともに、化学工業の新しい部門構造を整えるための対象工事を頑強に推し進めなければならない。

電力工業部門では、当面の電力需要を円滑に保障しながら生産を高い水準へ押し上げるための闘いを展開し、電力の送電ロスを減らし、新しい動力拠点の建設を推し進め、多様な自然エネルギーによる発電能力をより多く造成しなければならない。

石炭工業部門では、探査を先行させ、高速掘進運動を引き続き力強く繰り広げて炭田を増やし、先進的な採炭方法と機械手段を導入して石炭生産を成長させる一方、有煙炭鉍の生産をより立てることに注目を払わなければならない。

鉄道運輸部門では、鉄道の安全性を向上し、近代化を促し、交通運輸の全般に対する国家の統一的な指揮システムを立てて国の輸送活動を段階別に発展させなければならない。

機械工業部門では、人民経済の各部門と単位の整備・補強計画の遂行に必要な特注設備を責任をもって保障しながら、運輸機械と電気機器、建設機械の生産を増やし、質を高めなければならない。

結語では、人民の食衣住問題を解決する上で画期的な前進を遂げるための課題が重要に提示された。

全党的、全国的に農業に力を集中し、農村を労力的に、物質的に支援し、農業部門で全ての農事を科学技術的に行って穀物生産を高めるとともに、小麦と大麦の栽培面積が増えることに合わせて機械手段を積極的に導入しなければならない。

経済活動で基本建設を最優先順位に置いて人民の生活環境を根本的に改変させるための新しい建設革命を起こして、2022年度に計画された1万世帯住宅の建設をはじめ首都建設の全盛期を引き続きつなぎ、地方が変わる時代を開かなければならない。

軽工業部門では、一般消費財の生産を活性化することを重要な任務とし、頑強に実践しなければならない。食品加工技術をより高い科学的土台の上に引き上げなければならない。

金正恩総書記は、全国の生徒・学生に国家の負担で制服と学用品を保障するのは党と国家の一貫した政策であると述べ、新しい形態の良質の制服とかばんを全ての生徒・学生に供給すべきだという課題を提起し、これを実行するための党中央委員会的な重大措置を取った。

人民の食卓を潤いのあるものにするために水産部門で魚の生産を増やし、養魚と養殖をよく行うとともに、水産資源を増殖させるための活動を着実に行うことについて強調した。

結語では、採取工業と林業、情報産業など他の部門でも、その部門の活動を実際に前進させて国家経済の発展に積極的に寄与すべきであるという課題が言及された。

国土管理と都市経営部門では、徹底的に人民の生命・財産と国土の保護に目的を置いて山林の造成と河川の整理、砂防溪流工事を年中根気よく行い、道路の安全性と文化性を保ち、生態環境を保護、改善し、街と村に園林景観を造成するための活動を計画的に推し進めなければならない。

結語では、人民経済の物質的・技術的土台を整備、補強する活動を強力に推し進めるべきであるという課題が詳細に言及された。

また、内閣の経済組織者の機能と役割

を強め、計画化方法を改善する活動を深化させ、経済活動を正規化、規範化の軌道に押し上げる問題が強調された。

結語では、科学と教育、保健医療をはじめ文化分野の活動を革新して社会主義建設の全面的発展を促すべきであるという重要課題が提示された。

現時期、科学部門の重点課題は経済分野をはじめとする国の全般事業を均衡的に、同時的に発展させるための科学技術上の対策を明白に樹立することである。

科学研究単位では、国家経済の自立性を高め、人民の生活を向上させる上で切実な意義を持つ技術の開発と完成を基本課題に選定し、全ての部門、全ての単位で自らの科学技術陣を培養、育成する活動を生産と建設に先行させなければならない。

教育部門では、われわれの教育を未来を安心して委ねられる最も優れた教育、理想的な教育に発展させて全ての生徒・学生を真の革命的人材、有能な創造型の人材、社会主義後続部隊に育てることを新世紀の教育革命の基本目的としなければならない。

このために、秀才教育システムをさらに強化し、経済と国防をはじめとする各部門の中核、牽引機になることのできる優れた科学技術人材を大々的に育成し、地方と農村の教員隊伍を質量ともに強化し、教育の条件と環境を近代的に改変するための活動を迫力あるものに推し進めて国の全般的な教育水準を一段と引き上げなければならない。

来年、保健医療事業の基本方向を人民への医療サービスの質をいっそう高められる確実な保証を構築することに定め、保健医療部門の物質的・技術的土台をいっそう強化することに力を入れなければならない。

文学・芸術部門では、作家、芸能人の思想観点と創作態度、創造方法を根本的に革新し、文芸活動で政治性と時代性を保つ原則を堅持し、新しい世代の文芸人後進の育成に手間をかけて彼らが創作・創造活動で主流を成すようにすべきである。

結語では、出版・報道部門とスポーツ部門で堅持すべき原則的問題と先進水準

に上がるための大胆な開拓と活力ある跳躍を志向することについて強調された。

金正恩総書記は、集団主義に基づいた気高く文化的な生活様式と道徳気風は朝鮮式社会主義の根本であり、その進歩と発展の力強い活力素であると述べ、日ごとに高く発揚されているわが人民固有の美德、美風が社会的気風、国風として強固になるようにすることについて述べた。

結語は、非常防疫活動を国家活動の第1順位にしていささかの油断や隙間、盲点もないように強力に展開しなければならない最重要事に再び指摘した。

国の防疫基盤を科学的土台の上に確固と引き上げ、防疫部門の物質的・技術的土台を強固に築くことをはじめ、われわれの防疫を先進的かつ人民的な防疫へ移行させることに必要な手段と力量を補強、完備する活動を積極的に推し進めなければならない。

結語では、全党的、全国的、全社会的に反社会主義、非社会主義との闘争をより積極的に展開すること、法機関の役割を強めて社会の秩序と人民の安泰を徹底的に保障する課題、革命的順法気風を樹立し、社会主義法律制度をいっそう強化する課題が言及された。

金正恩総書記は、国防部門に提起される戦闘的課題を提示した。

日ごとに不安定になっている朝鮮半島の軍事的環境と国際情勢の流れは、国家防衛力の強化を片時も緩めることなくいっそう力強く推し進めることを求めている。

人民軍は、全軍を党中央の革命思想で一色化し、党中央の指導に絶対忠誠、絶対服従する革命的党軍に強化するための活動を絶えず深化させ、訓練第一主義と武器、戦闘技術機材の経常的動員準備、鋼鉄のような軍紀確立に総力を集中しなければならない。

軍需工業部門では、第8回党大会の決定を体して収められた成果を引き続き拡大しながら、現代戦に相応した威力ある戦闘技術機材の開発、生産を力強く推し進め、国家防衛力の質的变化を強力に促し、国防工業の主体化、現代化、科学化の目標を計画的に達成しなければならない。

現代戦の要求に即して民防衛武力を強化するための画期的な対策を立て、訓練革命を起こして労働赤衛軍の指揮メンバーの軍事的資質と指揮能力、民間武力の実戦能力を高めなければならない。

結語は、多事にわたる変化の多い国際政治情勢と周辺環境に対処して北南関係と対外活動部門で堅持すべき原則的問題と一連の戦術的方向を提示した。

結論では、社会主義建設の新しい勝利を目指す重大な闘争課題を成功裏に遂行するために革命の参謀部である党を強化し、その指導的役割を絶えず強めるための課題が提示された。

党の指導力と戦闘力を全面的に強化する上で現時期、重要に提起される問題は党活動を絶えず改善し、全党を学習する党につくって党中央と思想と志、行動を共にする一つの生命体になるようにし、党活動家の水準と能力を画期的に向上させることである。

全党的に党活動での形式主義を打破するための一大思想戦を繰り広げ、党内に革命的規律を確立し、幹部陣容を純潔に、堅実に打ち固めなければならない。

党組織では、党の経済政策と人民経済計画を徹底的に実行することに党活動の火力を集中し、党責任活動家は自分の単位と地方の面貌を改変させられるように発展指向的な計画を立て、その実現のための活動の一つ一つ目的意識的に粘り強く推し進めなければならない。

金正恩総書記は、2022年の闘争は社会主義建設の全面的発展のために、偉大なわが人民、愛する次世代のために少しも遅滞することなく果敢に展開し、必ず成功すべき一大決戦であると述べ、党の周りに一心同体となっていかなる万難の試練も切り抜けるという固い信念と強い力を持った偉大な人民がおり、今年のように厳しい環境の中でも自力で大きな成果を収めた貴重な経験があるがゆえに、わが党と人民は再び誇るべき勝利を収めることになることを確言した。

金正恩総書記は結語を終えながら、全党と全人民が果敢な進軍の勢いに拍車をかけて社会主義建設の全面的発展を力強く促すことで、来年を祖国の歴史に意義深く記される革命の大慶事の年に、輝

かしい未来へ進む偉大な闘争においても一つの分水嶺になるようにしようと熱烈に呼びかけた。

全ての参加者は、朝鮮式社会主義建設を勝利の次の段階へ力強く導く指導的闘争方針に、前進と革新の実践の武器になる金正恩総書記の綱領的な結語にとどろく「万歳！」の歓呼と熱狂的な拍手で絶対的な支持と賛同を表した。

党大会が開かれた2021年を祖国の繁栄史に特記すべき誇らしい勝利の年として誇り高く総括し、国家繁栄の新しい指針を明示した金正恩総書記の結語は、朝鮮式社会主義の全面的発展と人民の幸福を早めるための2022年の闘いを力強く鼓舞、激励する貴重な実践綱領であり、必勝の戦闘的旗印となる。

総会は、第2の議案の討議で国家予算審議組が検討して提起した2021年度の家計予算執行状況と2022年度の家計予算案を最終審議し、最高人民会議第14期第6回会議に提出することを承認した。

総会は、第3の議案「わが国の社会主義農村問題の正しい解決のための当面の課題について」を討議した。

金正恩総書記が歴史的な報告「朝鮮式社会主義農村発展の偉大な新時代を開いてこう」を行った。

金正恩総書記は、党創立の初期から農村問題を重視してきたわが党の政策とその実現のための歴史的道程について概括し、現時期、社会主義農村問題の正しい解決が持つ重要性和意義を明らかにした。

社会主義の全面的発展のための闘いが成熟した要求として提起されたこんにち、農村を革命的に改変させることは厳しい難局を主体的力の強化局面に反転させ、国家の繁栄・発展と人民の福祉増進を成し遂げていく上で重大な革命課題として提起されている。

このことから、第8回党大会は農業労働者を政策的に武装させ、農村を近代的技術と現代文明を兼備した裕福で文化的な社会主義農村に転変させるという戦略的方針を示した。

金正恩総書記は、「社会主義農村建設の新しい勝利を目指して！」というスローガンを高く掲げて農村振興を強力に促し

て国の農業を確固たる上昇段階に押し上げ、朝鮮式社会主義農村の飛躍的発展を成し遂げる偉大な新時代を切り開かなければならないと述べ、社会主義農村建設の目標と当面の中心課題について宣明した。

わが党の社会主義農村建設の目標は、全国の農村をチュチュ思想化し、物質的に裕福につくることであると述べ、農業労働者の思想意識水準の向上、農業生産力の飛躍的発展、農村生活環境の根本的な改変が朝鮮式農村発展において達成すべき目標であると語った。

報告は、社会主義農村建設の目標を達成するための活動は壮大かつ深刻な革命であり、長期性と多面性を帯びる農村問題を成功裏に解決するためには科学的な段階と目標を設定し、年次別計画に従って目的指向的な闘いを展開すべきであるということについて指摘し、今後、わが党と国家が堅持すべき中長期的な農村発展戦略を示した。

当面の農村発展戦略の中心課題は、全ての農業労働者を労働党時代にふさわしい革命的な農業労働者に改造し、国の食糧問題を完全に解決し、農村住民の生活環境を画期的に改変させるための闘いを力強く展開して農村を持続的な発展軌道の上に確固と押し上げることである。

金正恩総書記は、農業労働者を農村革命の担当者、主人につくるのは社会主義農村建設において提起される最も主たる課題であり、その勝利のためのかねめの要因であると述べ、農業労働者の思想を改造し、政治意識を高めることに優先的な力を入れて農業労働者のみんなを党の社会主義農村建設構想を忠実に支える農村革命家にしっかり準備させることが何よりも重要であると強調した。

農業生産を増大させて国の食糧問題を完全に解決することを農村発展戦略の基本課題に規定し、今後の10年間に段階的に達成すべき穀物生産目標と畜産物、果物、野菜、工芸作物、養蚕業生産の目標を明らかにした。

報告は、農村発展戦略において特別に重視すべき課題として全国の農村を新しく変貌させるための闘いを力強く展開することについて提起した。

国の全ての農村を社会主義にふさわしく当該地域の特性がはっきり生かされるように建設するのは農村住民に世にうらやむことのない立派な生活環境を提供し、国家の全般的発展を成し遂げるために党が最も重視し、必ず実現しようとする戦略的な重大計画である。

この計画の成功裏の実行のための保証は、国家の力強い支援と強力な国家的指導システムの稼働、地方建設の主人である市、郡の役割の向上である。

金正恩総書記は、われわれは信念と樂觀を持って農村革命を力強く促してわれわれの全ての農村を堂々と自慢することのできる社会主義楽園に立派に転変させ、人民の世紀的宿望と理想を早めて実現しなければならないと述べ、そのための具体的な課題と方途を宣明した。

農村で思想、技術、文化の3大革命を力強く促すのは社会主義農村問題の解決において提起される最も重要な課題である。

農村で3大革命を力強く繰り広げてこそ、農業勤労者を政治的・思想的面においても技術知識と文化生活面において根本的に開明させられるというのは、わが国の社会主義農村建設の歴史と現在の実態がよく示している。

報告は、思想革命を力強く繰り広げること、農村の3大革命の遂行において優先的な課題として提起した。

農村で思想革命の目的は、農業勤労者の頭の中に残っている古い思想を根絶し、農業勤労者を革命化、チュチェ思想化された共産主義的人間に育成し、われわれの革命力量を政治的・思想的に打ち固めて社会主義建設を強力に推し進めるところにある。

ここで重要なことは、農業勤労者を党の革命思想と政策、革命の各年代に輩出した農民英雄、愛国農民の闘争精神でしっかり武装させ、彼らの中に党と国家、制度の偉大さとありがたさを体得させ、集団主義が思想意識と生活を支配するようにするとともに、労働に誠実であり、高い階級的意識を身に付けるように教育するのに注目を払うことである。

報告は、農村で技術革命を力強く繰り広げて農業勤労者を知識型の勤労者に

つくることについて指摘した。

農業勤労者が政治的・思想的に、文化的に準備されるばかりか、高い科学技術を身につけてこそ社会主義農村の主人としての役割を果たすことができ、新時代の農村振興を速めることができる。

報告は、そのために全人民科学技術人材化の要求に即して農業勤労者の見聞を広めてやり、技術・技能水準を高めるための農業科学技術学習と先進営農技術普及活動を活発に展開し、農村に大学卒業生を多く配置し、彼らの中核的役割に頼って農場の技術力をさらに増大させ、農村で科学技術を遠ざけて古い経験に執着する傾向を徹底的に克服することについて指摘した。

報告は、農村文化革命の遂行に根本的な改善をもたらすためには農業勤労者の文化意識水準を高め、農村に革命的かつ健全で文化的な生活気風を確立すべきであると強調した。

農業勤労者が故郷と村をこざいりに整えるとともに、大衆文化芸術活動と大衆スポーツ活動も活発に繰り広げ、気高く健全な道徳気風を確立して農村に笑いとロマン、睦まじい情が満ち溢れるようにすべきである。

国家的に農村の教育と医療サービス水準の向上に力を入れ、首都の文化、労働者階級の文化、時代のモデル文化を地方と農村に絶えず伝播、拡大して農村文化革命を促すべきである。

金正恩総書記は歴史的な報告で、国の農業生産を持続的に成長させることを農村問題の解決において現時期、切実に提起される重要な課題に示した。

報告は、人民が最も解決を待っているこの切実な課題を成功裏に遂行する上で科学農業第一主義を一貫して掲げていくことについて指摘した。

科学技術を農業発展の主たる原動力にして国の農業を先進的な農業に転換させ、農業生産の安定的かつ持続的な成長を成し遂げようというのが、わが党の戦略的な発展観である。

それを実現するためには、種子革命を強力に推し進め、災害性異常気象に対処できる科学的な農業システムと方法を確立し、農業気象予報の迅速性と科学性、

正確性を保障すべきである。

現時期、農業生産を發展させる上で党が重視するのは国の穀物生産構造を変え、稲と小麦の栽培を強く推し進めることである。

金正恩総書記は報告で、わが人民の世紀的な宿望に近い将来に必ず実現するというわが党の決心と意志を再び表明し、わが人民の食生活文化を白米のご飯と小麦粉食品を主にして変える方向へ国の農業生産を志向させるための方途的問題を明らかにした。

農業部門では、国家的な稲と小麦の所要量を満たせるように必要な栽培面積を確保することを計画的に推し進め、先進的な栽培方法を導入し、営農作業に機械手段を積極的に取り入れ、乾燥施設を設けるとともに、小麦の加工能力を大幅に増やさなければならない。

差し当たり、各農場で小麦栽培の経験を積むための活動を細密に企画し、国家的に多収種子と必要な営農物資を保障するシステムを着実に立てなければならない。

報告は、全国的に大豆栽培、ジャガイモ栽培の熱風を再び高調させることについて強調した。

そして、低収獲地を改良して沃土に転変させるための闘いを中断することなく力強く展開し、平野地帯や中間地帯、山間地帯を問わず、全般的な農場でヘクタール当たりの収量を高めるための課題を提示した。

報告は、畜産と果樹、野菜と工芸作物の栽培を増やすことを人民の生活を潤いのあるものにするための重要な課題に言及した。

現存の畜産拠点近代的に改修し、畜産の発展に有利な郡を畜産郡に転換させて肉と卵、乳の生産量を大幅に成長させるとともに、優良な果物品種を広く繁殖させ、先進的な栽培技術を確立して子どもと人民に四季にわたって新鮮な果物といろいろな果物加工品が行き渡るようにすべきである。

野菜畑灌水システムを還元、復旧し、近代的な大規模野菜温室農場を各所に建設し、キノコ栽培拠点を活性化して人民の食卓を豊かにし、工芸作物の栽培に

も力を入れて糖の原料と油の原料をはじめとする軽工業原料問題を円滑に解決すべきである。

報告では、農業部門の科学技術力を強化するための課題が重要に言及された。

世界の農業発展の趨勢に合わせて農業生産の科学化、情報化、集約化を実現する上で農業科学研究機関と農業部門の大学が役割を果たす問題、生産性を向上させるだけでなく農場員の骨の折れる労働を減らし、機械化の実現に有利な営農技術と方法を研究する問題、全ての農業科学研究拠点を先端化し、優れた農業技術人材を大々的に養成する問題、農場、作業班、農場員に至るまで先進的な農業科学技術と営農方法が適時に普及されるようにする問題が具体的に明示された。

報告は、社会主義社会で農業生産の持続的発展を遂げる上で指導と管理を改善することが持つ重要性和原則的要求を強調し、国の農業生産の全般に対する統一かつ計画的で科学技術的な指導を強め、郡協同農場経営委員会を主とする朝鮮式農業指導体系の優越性を発揚させる上で提起される現実的な方途を明示した。

これとともに、農業幹部と農村初級活動家の水準と能力を高め、農業部門の根深いほら（虚偽）をなくすことについて指摘した。

金正恩総書記は歴史的な報告で、農業に対する国家的投資を増やして農業経営の物質的・技術的土台を画期的に強化するための革命的な方針と対策を明らかにした。

金正恩総書記は、環境と条件にこだわらず農業部門に対する国家的投資を目的指向性あるものに増大させなければならないと述べ、内閣をはじめ国家経済機関と関連単位が農業部門に対する投資分を系統的に増やし、設備と資材、資金を計画通りに無条件に保障する強い制度と秩序を確立すべきであると強調した。

報告では、農業経営の水利化、機械化、化学化、電化の実現のための国家的な投資状況が詳細に分析され、根本的な解決方途が具体的に言及された。

いかなる干ばつと洪水にも微動だにせず農業を安全に営めるように国の灌漑システムを全般的に整備、補強してより完成し、農村に窒素肥料と磷酸肥料、カリ肥料をはじめ農作物の生育に必要な各種の肥料と効能の高い農薬を十分に供給し、近代的な電力設備と電気機械をより多く送って農村の生産活動と文化生活の条件を改善し、向上させ、新しい土地開墾と干拓地の開墾に国家的な力を集中して耕地面積を引き続き増やさなければならない。

金正恩総書記は、全国の農村をわれわれが作った近代的な農業機械で覆い、農業勤労者が機械で農業を楽しく営む社会主義農村の新しい風景を広げるといのが党の構想であり、決心であると述べ、これを早めるために現存の農業機械工場の実態に対する全面的な分析に基づいてこの問題を深く研究したと語った。

党中央の構想は金星トラクター工場を馬力の高いトラクターと共にさまざまな能率の高い農業機械を生産することのできる総合的な工場に発展させるとともに、主要農業機械工場と農業機械研究部門に投資を集中して国の農業機械工業を完全に一新させることであると明し、その実現のための特別重大措置を取った。

金正恩総書記は、国の最大の農業道である黄海南道を重視すべきであると述べ、5カ年計画の期間に党と国家が黄海南道に力を集中して国の農業生産において旗印を掲げていくようにすることについて重要に強調した。

これとともに、国家的に田植えと草取り、秋の取り入れをはじめ主要営農時期に力量と手段を機動性あるものに動員することを定例化、義務化し、農業勤労者の生活を支援し、生産熱意ももり立ててやるように軽工業部門と商業部門など当該の部門が各種の生活用品を日常的に多く供給するための課題を提示した。

金正恩総書記は、困難な状況で経営活動を行っている協同農場の全般的な財政実態を詳細に分析し、われわれの農村が独り立ちするようにし、農場の経済的土台を補強してやるための重要な対策の一環として協同農場が国家から貸付金をもらって償還できなかった資金を全て免除

する特惠の措置を宣布した。

金正恩総書記は報告で、農村の面貌と環境を画期的に改変させることを社会主義農村建設における最も重大な課題に提示した。

近い将来に全国の全ての農村を三池淵市の農村の水準に、裕福で文化的な社会主義理想村につくろうというのが、わが党の農村建設政策である。

この構想と政策を実現するのは全人民が望み、歓呼する人民的な事業であり、われわれの時代の新しい社会主義農村文明、地方が変わる新世界を開く政治的的事业であり、社会の進歩と繁栄のための事業であり、わが共和国の全般的発展を成し遂げる歴史的な事業である。

金正恩総書記は、三池淵市の建設で蓄積した優れた経験を積極的に奨励し、拡大して全国の全ての農村の生活文化環境を変貌させ、その過程を通じて文化的な全社会の建設を進めなければならないと述べ、全ての市、郡に農村建設に必要なセメントを優先的に前もって供給すること、設計陣と建設陣を強化し、必要な建設設備を備える課題、農村建設で住宅の建設を優先的に推し進める課題、農村建設を党と国家が指揮する強力な指導システムを確立する課題、主要資材と仕上げの建材を国家的に保障し、地方にも建材生産拠点を設ける課題を具体的に提示した。

金正恩総書記は、地方の建設に関する党の建築美学思想を堅持して農村建設において独創性と現代性、文化性、政治性を保障することについて特別に強調した。

国の経済活動がまだ困難な条件の下で行われ、社会主義建設の膨大な闘争課題が提起されている時に、全国の農村を飛躍的に振興させるために取られた重大措置は、党と国家の革命的な農村建設政策の発現であると同時に、数百万の農業勤労者に施される大いなる恩恵、配慮となる。

歴史的な報告では、社会主義農村建設に対する党の指導を強めることが重要な課題に提起された。

農村の里党組織と道・市・郡党委員会が党の農村建設政策、地方建設政策に

徹底的に準じて農村発展、地域発展を促進するための作戦と設計を正しくし、活動家と党員と勤労者をその実行へ力強く奮い立たせなければならない。

特に、里党委員会が党の基本戦闘部隊、気迫あつて戦闘力のある集団になって社会主義農村建設政策を党が正しく指導して牽引し、里党書記の水準と役割を強めなければならない。

報告は、全党的に社会主義農村建設政策の実行状況を定期的に総括し、対策を立てるシステムを確立して農村建設綱領が毎年、偉大な変革的実体に転換されていくようにすべきであると強調した。

金正恩総書記は、党の正確な指導があり、最も正しい農村建設綱領があり、党員と勤労者の忠実性と愛国的情熱がある限り、国の農業を持続的な発展の軌道に確固と押し上げ、農村の大変革をもたらすための歴史的な事業で必ず勝利が収められるとの確信を表明した。

新世紀の社会主義農村問題解決のすばらしい展望と青写真を示した金正恩総書記の報告は、わが国の社会主義農村発展の新時代を告げる偉大な闘争綱領であり、われわれの力、われわれの知恵、われわれの奮闘によって社会主義楽園をこれ見よがしに建設するという朝鮮労働党の強烈な意志と決心の表出である。

新しい社会主義農村建設綱領は、偉大な社会主義農村テーゼの深化、発展として、農村革命の炎を強く燃え上がらせて社会主義の全面的繁栄を促し、わが人民の世紀的宿望を一日も早く実現する上で重大な変革的意義を持つ記念碑的文献となる。

総会は、金正恩総書記の綱領的な結語と歴史的な報告の思想と精神に立脚して、来年の闘争課題と新しい農村建設綱領の実行のための活動計画を細部的に立てる分科別研究および協議会を3日間行った。

総会は、決定書の草案作成グループがまとめた意見を最終審議し、決定書「第8回党大会が示した5カ年計画の2022年度課題を貫徹するために」と「朝鮮式社会主義農村建設の偉大な闘争綱領を貫徹するために」を全会一致で採択した。

総会は、第4の議案に対する党中央指

導機関メンバーの十分な事前研究を通じて党規約修正案が党建設と党活動を正規化、規範化する上で実践的意義を持つと認めて党規約の当該の条項を修正することに關する決定を全員賛成で可決した。

総会は、第5の議案を討議した。

党中央指導機関メンバーの2021年度下半期の党組織・思想生活状況に関する資料が通報され、総括があつた。

総会は、第6の議案として組織問題を討議した。

党中央委員会政治局委員、委員候補を召還および補欠選挙し、党中央委員会委員、委員候補を召還および補欠選挙した。

5日間にわたって革命的熱意の中で行われた朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会は、金日成主席と金正日総書記の革命思想と偉業にいつも忠実であることを厳かに宣誓しながら、その活動を終えた。

朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会は、偉大な党の不拔の指導に従って希望に満ちる新年2022年を革命発展の一大分水嶺に輝かすための全人民の大進軍の開始を宣言し、朝鮮式社会主義建設の全面的発展を強力に促す戦略的方針を示した歴史的な会議としてチュチュの革命史に意義深く刻み込まれるであろう。

2. 公報の内容

2022年1月1日付『労働新聞』で報道された朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会公報で公示された。補欠選挙された党中央委員会の政治局委員、委員候補と党中央委員会の委員、委員候補は、次の通りである。

党中央委員会政治局委員

パク・ジョングン

党中央委員会政治局委員候補

李太燮

党中央委員会委員

韓龍国、王昌旭、チュ・ヨンイル、ソ・ジョンジン、リ・ヒョクオン、チン・グムソン、

イム・ギョンジェ、金日国、チェ・ソンハク、リ・ Cholサン、姜炯峰、桂明鉄、リ・ジョンギル、リ・ギョンホ、オ・グム Chol、キム・ボクナム、リ・チャンソン、キム・ファソン、朴泰成、チャ・ミョンナム、金光革

党中央委員会委員候補

シム・ホンビン、キム・ジョンギル、パク・スイル、リ・ギョングン、パク・クァンジュ、チェ・チュンギル、宋永健、李逢春、コ・イン Chol、チェ・グァンイル、松碩元、キム・グァンイル、キム・ジョンソン、パク・ソン Chol、ペク・ヒョングン、チェ・ギルリョン、チェ・グァンジュン、リ・ギョングン、コ・ナムヒョク、趙石虎、カン・ミョングン、チェ・リョングン

3. 朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会の内容

同総会では、次の6つの議題が取り扱われた。

1. 2021年度の主要党と国家政策の執行状況の総括と2022年度の活動計画について
2. 2021年度の国家予算執行状況と2022年度国家予算案について
3. わが国の社会主義農村問題の正しい解決のための当面の課題について
4. 党規約の一部の条項を修正することについて
5. 党中央指導機関メンバーの2021年度下半期の党組織・思想生活状況について
6. 組織問題

(1) 第一議題について

金正恩総書記が、第1議題に対して「2022年度の党と国家の活動方向について」と題する綱領的な結語を述べ、第3議題に対して「朝鮮式社会主義農村発展の偉大な新時代を開いていこう」と題する報告を行った。

この結語においては、まず「松新・松花地区の1万世帯建設が基本的に締めくくられて」と、これら住宅が完工に近づいてはいるが、いまだ入居を行う段階ではないことが示されている。2017年から厳しくなった国連安保理決議による国際的制裁や

2020年2月以降の特別防疫体制に起因する貿易の落ち込みなどが影を落としていると言えよう。ただし、建物が建っているのは事実であり、内装材料や家具などの生産が進めば、入居が始まる可能性は十分にある。次に、両江道の三池淵市建設の第3段階工事が完成し、地方都市の改修モデルとなったと位置づけている。次に咸鏡南道の検徳地区の5000世帯住宅（5年間で合計2万5000世帯）の建設が成功裏に進捗しているとしている。また、国営経済のうち、電力、石炭部門のパフォーマンスが比較的好かったと評価し、その他の部分でも成果が現れているとしている。また、「経済部門で計画規律が確立し、経済幹部の活動気風が著しく改善された」「内閣をはじめ経済指導機関で経済活動に対する国家の統一的指導と統制を強化し、经济管理方法を改善するための試みが積極化された」とし、内閣中心制やその下での幹部たちの働きが改善してきていることを強調している。また、「社会主義法律制度を完備する活動がより深化され、法秩序が強化されて経済の発展と人民生活の安定を保障する上で実質的な進展が遂げられた」と、2021年2月の朝鮮労働党中央委員会第8期第2回総会で重視された法的統制の問題にも一定の前進が見られてことを示唆している。国防工業部門に関しては、「正確な発展計画に従って先端兵器システムを連続開発しながら、われわれの軍事力の先進性と近代性を大いに誇示したのは、今年の実績でたいへん重要な位置を占める」とし、ミサイルをはじめとする武器、装備の近代化の進展を評価している。「極めて困難な環境で経済を安定化する方法、自力で生き抜く方法を一つ一つ積極的に探し出して実行していること、これが経済発展での肯定であり、この過程がすなわち全面的国家発展に向けた朝鮮式社会主義の力強い前進過程になる」とし、制裁下、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響下でも、前進は見られているとの認識を示している。

次に「結語では、今年の活動での欠点と重要な教訓、その解決策が詳細に言及された」としており、2021年1月の朝鮮労働党第8回大会以来定着してきた問

題点の指摘とその原因の追及、幹部間での相互批判などが健在であることが観察された。そのうえで、「経済部門では、現行の生産を活性化しながら整備・補強をより力強く推し進めて国の経済を成長の軌道に乗せ、人民に安定して向上した生活を提供することに総集中しなければならない」とし、新たな産業分野の開拓などについては語られなかった。結語での言及の順番はまず重化学工業で、金属工業、化学工業、電力工業、石炭工業、鉄道運輸、機械工業の順で、2021年に比較的業績がよかったと考えられる石炭工業と鉄道運輸が後退し、金属工業（特に製鉄業）と化学工業の整備が優先されているようである。次に農業、軽工業、水産業、採取工業（鉱業）、林業、情報産業、国土管理と都市経営の順に言及されている。内閣中心制については「内閣の経済組織的機能と役割を強め、計画化方法を改善する活動を深化させ、経済活動を正規化、規範化の軌道に押し上げる問題が強調された」とし、引き続き内閣中心制を実質的に完成させていく努力が強調された。その後、科学と教育、保健医療をはじめ文化分野の活動、文学・芸術部門、出版・報道部門、スポーツ部門の順に言及されている。

集団主義については、「金正恩総書記は、集団主義に基づいた気高くて文化的な生活様式と道徳気風は朝鮮式社会主義の根本」とであるとしており、注目に値する。

非常防疫活動については、「国家活動の第1順位にしていささかの油断や隙間、盲点もないように強力に展開しなければならない最重大事」ととらえられており、感染者の有無とは別に、常に流入する恐れのあるCOVID-19の脅威を強調している。このような認識は、貿易や人的交流の再開に対して負の影響を与えていくことになるであろうが、現下の複雑な国際情勢の下では、経済的利益を犠牲にしてでも安定を重視する選択をせざるを得ないのである。その後の韓国の大統領選挙の結果やロシアのウクライナへの侵攻をめぐる米英欧日韓と中口の対立の激化、中国東北地方でのCOVID-19の急速な感染拡大などを勘案すれば、中朝国境の本格的

な開放は、2022年内には実現できず、早くとも23年以降になるであろう。

反社会主義、非社会主義との闘争に関して、「全党的、全国的、全社会的に反社会主義、非社会主義との闘争をより積極的に展開することと、法機関の役割を強めて社会の秩序と人民の安泰を徹底的に保障する課題、革命的順法気風を樹立し、社会主義法律制度をいっそう強化する課題」が言及されたとしている。これは単に外国（特に西側や南）の文化の流入にとどまらず、党や国家機関、国営企業においても政策や制度、ルールを守ることを強調していることと解すべきであろう。機関の特殊性を云々して、制度を無視するような動き、機関本位主義に対しては、非社会主義として厳しく対処していくことを示したものとと言える。

国防部門については、「日ごとに不安定になっている朝鮮半島の軍事的環境と国際情勢の流れは、国家防衛力の強化を片時も緩めることなくいっそう力強く推し進めることを求めている」という認識を示している。それに対する解決策としては、思想面と訓練や武器、装備品の維持、管理を指摘しつつ、軍紀振粛の重要性を強調している。軍需工業部門に対しては、「現代戦に相応した威力ある戦闘技術機材の開発、生産を力強く推し進め、国家防衛力の質的変化を強力に促し、国防工業の主体化、現代化、科学化の目標を計画的に達成」する必要を指摘している。また、民防衛武力の強化についてもふれており、「労農赤衛軍の指揮メンバーの軍事的資質と指揮能力、民間武力の実戦能力」を高める必要について指摘している。

国際関係については、「多事にわたる変化の多い国際政治情勢と周辺環境に対処して北南関係と対外活動部門で堅持すべき原則的問題と一連の戦術的方向を提示した」とだけ述べており、詳細な記述は行われていない。

最後に、朝鮮労働党の指導力強化について触れており、「党活動家の水準と能力を画期的に向上させること」「党活動での形式主義を打破」と、幹部が能力を発揮できていない現状を示唆する発言がある。そして幹部たちは「党の経済政

策と人民経済計画を徹底的に実行することに党活動の火力を集中し、党責任活動家は自分の単位と地方の面貌を改変」することを求めている。

(2) 第3議題について

第3議題「わが国の社会主義農村問題の正しい解決のための当面の課題について」では、金正恩総書記が「朝鮮式社会主義農村発展の偉大な新時代を開いていこう」と題する報告を行った。この報告は金日成主席が1964年に提起した「社会主義農村問題に関するテーゼ」に依拠しながら、現代の趨勢に合わせた農業政策の方向性について論じたものである。

議論の前提として、都市と農村の格差を縮小させるという命題は不変であるとしたうえで「農村を近代的技術と現代文明を兼備した裕福で文化的な社会主義農村に転変させるという戦略の方針」を示したとされる。そして「科学的な段階と目標を設定」する必要性を提示している。

「文明」に関する金正恩総書記のこだわりは強く、都市における発展の趨勢を農村にも普及させたいという強い意志が感じられる。

そのうえで、「今後の10年間に段階的に達成すべき穀物生産目標と畜産物、果物、野菜、工芸作物、養蚕業生産の目標を明らかにした」とされる。その中で、「当該地域の特性がはっきり生かされるように建設する」と画一的になりがちな指導の問題点を指摘しながら、「国家の力強い支援と強力な国家的指導システムの稼働、地方建設の主人である市、郡の役割の向上」が必要であるとしている。

地方の幹部にとっては、国家の統一的指導を守りつつ、その地方の独自性を活かすという、これまでにない新しい課題が降って湧いたことになる。

具体的には農村における思想、技術、文化の3大革命の促進が必要あるとし、思想革命の面では「集団主義が思想意識と生活を支配するようにするとともに、労働に誠実であり、高い階級的意識を身に付けるように教育」することが重要であるとしている。競争やその結果としてのある程度の格差の存在を全否定しないながらも、大韓民国（以下、韓国とする）にお

るような勝者総取りの意識や個人主義が広まることに対する警戒感が見て取れる。技術革命の面では、「農業勤労者を知識型の勤労者につくる」が指摘され、「全人民科学技術人材化の要求に即して農業勤労者の見聞を広めてやり、技術・技能水準を高めるための農業科学技術学習と先進営農技術普及活動を活発に展開し、農村に大学卒業生を多く配置し、彼らの中核的役割に頼って農場の技術力をさらに増大させ、農村で科学技術を遠ざけて古い経験に執着する傾向を徹底的に克服する」としている。平壤や各道の所在地をはじめとする都市でのライフスタイルや生産における意識の変化を農村にも波及させたいという意図があるのだろう。科学技術力の強化については、「世界の農業発展の趨勢に合わせて農業生産の科学化、情報化、集約化を実現する上で農業科学研究機関と農業部門の大学が役割を果たす問題、生産性を向上させるだけでなく農場員の骨の折れる労働を減らし、機械化の実現に有利な営農技術と方法を研究する問題、全ての農業科学研究拠点を先端化し、優れた農業技術人材を大々的に養成する問題、農場、作業班、農場員に至るまで先進的な農業科学技術と営農方法が適時に普及されるようにする問題が具体的に明示された」とされる。農業を優れた産業としたという意気込みが見られるが、都市と農村の格差は技術的水準だけでなく、教育や医療、社会福祉など幅広い分野に存在するため、一朝一夕に変わるわけではない。10年単位での息の長いテコ入れが必要であろう。文化革命の側面では、「農業勤労者の文化意識水準を高め、農村に革命的かつ健全で文化的な生活気風を確立すべき」としている。

そのうえで、種子革命の推進と災害性異常気象に対処できる科学的な農業システムと方法の確立、農業気象予報の迅速性と科学性、正確性の保障の重要性が強調されるとともに、「国の穀物生産構造を変え、稲と小麦の栽培を強く推し進めること」が必要であるとする。金正恩総書記は報告で、わが人民の世紀的な宿望を近い将来に必ず実現するというわが党の決心と意志を再び表明し、わが人民の

食生活文化を白米のご飯と小麦粉食品を主にして変える方向へ国の農業生産を志向させるための方途の問題を明らかにしたとされる。これはコメとトウモロコシを主要な穀物と規定した金日成時代の政策の見直しである。都市では日本や韓国などと同じく、パン食が普及し、麺などの小麦粉食品も増えている。このような趨勢を農業政策に反映させようとしているものと思われる。ただし、小麦の栽培増加はこれから始めることになるので、実際に効果が出るまでには10年程度の時間がかかるのではないか。その他、大豆栽培、ジャガイモ栽培の重視や低収穫地の改良、畜産と果樹、野菜と工芸作物の栽培増など、国内生産の質、量の増加による国民生活の向上を図ろうとしている。

農業に対する指導と管理については、「国の農業生産の全般に対する統一的かつ計画的で科学的な指導」の強化と「郡協同農場経営委員会を主とする朝鮮式農業指導体系の優越性を発揚させる上で提起される現実的な方途を明示した」としている。これとともに、農業幹部と農村初級活動家の水準と能力を高め、農業部門の根深いほら（虚偽報告のことか）をなくすことについて指摘したとしている。同時に、「農業に対する国家的投資を増やして農業経営の物質的・技術的土台を画期的に強化する」としており、農業経営の水利化、機械化、化学化、電化の実現のための国家的な投資状況の分析に基づく解決策がとられているとしている。また、金正恩総書記は、「国の最大の農業道である黄海南道を重視すべきであると述べ、5カ年計画の期間に党と国家が黄海南道に力を集中して国の農業生産において旗印を掲げていくようにすること」について強調しつつ、「困難な状況で経営活動を行っている協同農場の全般的な財政実態を詳細に分析し、われわれの農村が独り立ちするようにし、農場の経済的土台を補強してやるための重要な対策の一環として協同農場が国家から貸付金をもらって償還できなかった資金を全て免除する特恵の措置を宣布した」としている。現場での管理については、「社会主義農村建設に対する党の指導を強めることが重要な課題」であるとされ、特に「里党委員会が党

の基本戦闘部隊、気迫あって戦闘力のあ
る集団になって社会主義農村建設政策を
党が正しく指導して牽引し、里党書記の水
準と役割を強めなければならない」としてい
る。ここ数年、朝鮮労働党では、現場に近
い組織を重視する傾向にあるが、その流
れの中での決定といえるだろう。

おわりに——朝鮮労働党中央委 員会第8期第4回総会の意義

この総会でも分科別研究および協議会
が行われ、今回はそれが3日間行われた。
総会は、決定書の草案作成グループがま
とめた意見を最終審議し、決定書「第8
回党大会が示した5カ年計画の2022年度
課題を貫徹するために」と「朝鮮式社会

主義農村建設の偉大な闘争綱領を貫徹
するために」を全会一致で採択したとして
いる。現場の声を上級の決定に反映させ
る、ある意味、党内民主を制度的に保障
する仕組みが生まれてきていることは朝鮮
労働党第8回大会以降の流れで注目すべ
き点である。

第1議題、第3議題ともに、大きな変化
とは言えないかもしれないが、上述したよ
うに、実質的に朝鮮労働党や北朝鮮政府
の活動に影響を与えうる変化が散見され
る。これらの変化が本当に実現できるとす
れば、制裁下かつ特別防疫体制下にお
いても、金正恩総書記が目指している内
閣中心制を中心とする朝鮮式经济管理
体制が不断に整備されてきているという結
論になるであろう。また、朝鮮労働党や北

朝鮮政府において「実質的に働く幹部」
を増やすことや、農村などの現場で「虚
偽報告をしない文化」を確立することがい
かに難しく、時間がかかるのか。しかし、
それこそが経済を立て直す上で重要であ
るか指導部が認識していることが確認
できる。

以上のことから、北朝鮮においては非
常に厳しい経済的、国際的な環境の中
でも、経済の外延的拡大が再び可能にな
った時に、より力強い成長をすることができ
るようにするための粘り強い経済政策の
改善が試みられていると言える。長年の
習慣を変える、人々の意識改革をとま
つた「事業姿勢の転換」が実際に成功す
るかどうかについては、もう少し時間を
おいてみる必要があるだろう。